

項目	中間年(2020年)までの取組み (計画より転記)	2019年度の実施内容と結果(予定含む) (左記取組み内容を記載)		次年度以降の取組み予定
		取組み内容	着手状況 (◎:実施 ○:今年度実施予定 △:次年度以降実施予定)	
地域医療構想	「大阪府泉州保健医療協議会」等において、地域で必要となる医療機能を検討するため、高齢化の影響で需要が見込まれる疾患を中心に医療提供体制の現状分析と経年的評価に取組みます。	・大阪府泉州医療・病床懇話会及び病院連絡会(8月6日)を開催し、医療機関の診療実績、医療資源に関する情報共有、地域医療構想が目指す病床機能分化の方向性等について意見交換を実施した。 ・第2回病院連絡会では、2025に向けた各病院の方向性について、各病院から説明いただき、公立・公的病院と民間病院の機能分担の在り方等、地域医療構想の推進のための協議を行った。	◎	・引き続き、医療・病床懇話会及び病院連絡会と連動し、各医療機関が担う医療機能を明確にし、第7次大阪府医療計画に基づく地域医療構想の推進に向けて、情報共有及び検討を行う。
	圏域内の病院関係者に対し、病床機能報告の結果や医療提供体制の現状等及び不足している医療機能について情報提供する場を設置するとともに、医療機関の自主的な取組をさらに支援します。	・圏域単位で、病床機能報告対象病院が全て参加する「病院連絡会」(8月6日、11月29日)を開催。医療実態、非稼働病床の運用見込み、医師確保計画の策定状況の報告等、今後の医療体制の方向性について検討した。	◎	・病院連絡会を継続実施し、関係者間で、地域の医療提供体制の今後のあるべき姿について検討し、医療機関の自主的な機能分化、連携を推進する。
在宅医療	安定した在宅医療を提供するため、訪問診療や訪問看護等の拡充を図るとともに、緊急時や重症患者の受入れ等の後方支援のシステムづくりを支援します。	・在宅医療懇話会(8月8日)を開催し、「グループ診療」をメインテーマに、岸和田在宅24の活動紹介と、各医師会の在宅医療の現状について情報交換を行った。	◎	・医師会員の高齢化、専門分野に特化した診療体制等から、新たに在宅に携わる医師は増えていないことから、在宅診療をする医師の確保のための方策について検討していく。また、市町と連携して、訪問看護ステーション等、在宅療養に欠かさない資源、連携手段の情報の整理や共有に取り組む。
	医療・介護関係者による会議や研修を通じて、職種間の役割理解を深め、多職種連携を促進する取組を引き続き推進していきます。	・大阪府地域包括ケアシステム(在宅医療)構築支援事業として、泉州圏域の3市3町が医療と介護連携促進のためのロードマップを作成中。課題分析では、特に在宅診療の医師確保や多職種連携について、行政として何ができるかについて検討している。 ・管内市町実施の医療・介護連携会議に保健所も参画している。	◎	・今年度策定するロードマップを活用して、長期的・具体的な事業実施計画を作成し、懇話会において紹介し、泉州圏域全体で推進していく。 ・管内市町での医療・介護連携会議に参画し、情報提供や必要に応じて調整を行う。
がん	がんの医療体制の充実に向け、「泉州がん診療連携(ネットワーク)協議会」を通じて、病病・病診連携をさらに進めます。	・国指定がん拠点病院の市立岸和田市民病院を事務局とし、保健所が参画する「泉州がん診療連携(ネットワーク)協議会」(7月4日、2回目は年度内開催予定)において、がん医療に関する情報交換・情報共有を図ることにより、病病・病診連携を促進している。	◎	・「泉州がん診療連携(ネットワーク)協議会」を中心として、病病・病診連携を促進する。
	がん対策についての情報やがんに関する医療機能、特に緩和ケアに関する情報の収集を行い、府民への情報発信に活かします。	・「泉州がん診療連携(ネットワーク)協議会」に各専門部会を置き、部位別のがん対策の検討を行うとともに、広く住民啓発を実施。保健所は、「がんパス部会」(5月30日)に参画し、年度内に「肝炎・肝がん対策部会」にも参画予定。	◎	・「泉州がん診療連携(ネットワーク)協議会」による各専門部会の活動の情報集約や、がん医療に関するさまざまな情報収集を行い、府民への情報発信に活かしていく。
脳卒中等の脳血管疾患、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病	生活習慣病の発症・重症化予防のため、生涯を通じた健康づくりについて、地域と職域の連携を深め、健康課題の分析・事業の実施に取組みます。	・各保健所単位(和泉・岸和田・泉佐野)の「地域職域連絡会」(1~3月予定)において、保健所・市町・職域の統計データや健康課題について情報共有、意見交換を行う予定。	○	・地域の健康課題の分析をもとに、各保険者の特定健診受診率、保健指導率の向上、地域と職域が連携した健康づくり事業の推進を図る。
	脳卒中等の脳血管疾患については、泉州地域リハ地域支援センターを事務局とした、「脳卒中地域連携パス(泉州版)運用会議」等において急性期から回復期及び在宅にむけた医療連携を引き続き推進していきます。	・「脳卒中地域連携パス(泉州版)運用会議」(8月3日実施、2月22日予定)を泉州地域リハ地域支援センターが実施し(年2回)、連携パスの進捗状況の報告や情報提供を行った。	◎	・引き続き、泉州地域リハ地域支援センターを事務局として脳卒中の医療連携について情報共有、検討を行う。
	心筋梗塞等の心血管疾患については、再発予防も含めた医療連携の推進に引き続き取組みます。	・地域医療機関が推進する「心不全地域連携クリティカルパス」および「ハートノート」を周知する研修会(8月22日)を開催し、心不全患者の再発及び再入院の予防の必要性を啓発した。	◎	・患者に携わる関係機関の多職種向けの研修会等の実施により、医療連携・医療介護連携を促進していく。
	糖尿病については、糖尿病性腎症等の重症化予防のため、医科・歯科・薬科等様々な関係機関が関わる体制構築に引き続き取組みます。	・泉州圏域糖尿病医療連携推進検討会(2月27日予定)で、糖尿病の治療や重症化予防の医科・歯科・薬科連携等についての意見交換、市町実施の糖尿病性腎症重症化予防事業の情報共有を行う予定。	○	・引き続き、病診連携、医科歯科連携の推進のための検討を行っていく。

■2019年度 第7次大阪府医療計画PDCA進捗管理票 泉州二次医療圏

項目	中間年(2020年)までの取組み (計画より転記)	2019年度の取組内容 (左記取組み内容を記載)		次年度以降の予定
		取組み内容	着手状況 (◎:実施 ○:今年度実施予定 △:次年度以降実施予定)	
精神疾患	精神科の医療資源の優位性を生かし、診療所を含む各医療機関が連携し、多様な精神疾患に対応できる医療を提供できるよう、協議の場を設けて意見交換を行います。	・大阪府泉州精神医療懇話会(12月12日)を開催し、医療計画(二次医療圏における今後の取組み)の進捗状況の確認と方向性の検討、妊産婦の自殺対策として産後うつについて情報共有を行った。	◎	・府が集約する「地域連携拠点医療機関の実績確認のアンケート結果」と、各種データ等により医療体制の状況の共有を行う。さらに医療計画についての進捗状況の確認と方向性の検討を引き続き行い、今後も精神医療基盤の整備を図る。
	長期入院患者の退院促進については、長期入院精神障がい者退院促進事業を活用した地域移行への取組を進めます。	・医療機関、市町村担当課、地域精神医療体制整備広域コーディネーター、相談支援事業所等との連携により、第4次大阪府障がい者計画と整合を図り、院内茶話会、院内研修会実施のバックアップやピアサポーターの支援を実施した。	◎	・地域精神医療体制整備広域コーディネーター事業が、今年度末に終了予定のため、地域への機能の引継ぎがスムーズに行なわれるよう支援する。
	医療機関や福祉関係事業所、保健所、市町村等が重層的に連携できるよう、保健所ごとの協議の場を設置し、併せて市町村ごとの協議の場の設置を働きかけることで、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けたネットワークづくりに取組みます。	・各保健所単位で協議の場を開催予定。(和泉2月18日、岸和田2月頃、泉佐野2月頃) ・併せて、市町ごとの協議の場において、各市町の整備状況と今後の方向性について、市町との情報共有を行う。	○	・次年度以降も保健所圏域での協議の場を継続開催する予定。 H32年度末までに整備予定である市町ごとの協議の場について、整備状況を把握し、重層的な連携を目指した働きかけを行う。
救急医療、災害医療	メディカルコントロール(MC)協議会と救急懇話会の連携により、救急医療体制の質的向上に取り組んでいきます。	・MC協議会と救急懇話会の合同検証会議を毎月開催し、搬送困難事例についての検証及び実施基準に基づく活動の検証等を実施している。 ・MC協議会主催で救命士の講習会を行い、救急搬送体制の質的向上に取り組むとともに、最終受入れ当番病院の輪番制による救急搬送受け入れ体制構築等、救急医療体制の充実を図った。	◎	・引き続き、MC協議会と救急懇話会の連携により、検証会議や講習会を通じた救急医療体制の質的向上に取り組んでいく。
	ORIONシステムの活用や、消防機関の実態調査等により救急搬送状況の調査・分析に努めるとともに、必要に応じて傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準を改正します。	・大阪府泉州救急懇話会(10月9日)を開催し、ORIONシステムを活用した救急搬送データ分析資料を基に、泉州の救急搬送実態の情報共有や実施基準の改正を検討した。	◎	・引き続き、泉州救急懇話会にて救急搬送実態の調査・分析に努め、必要に応じて傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準の改正を検討する。
	災害拠点病院が開催する大規模災害時医療連携プロジェクト会議を通じて、関係機関との連携体制を構築していきます。	・「大阪府地震津波防災訓練」(1月17日予定)において、災害拠点病院と連携した訓練を実施し、役割や連絡体制の確認を行う。	○	・災害拠点病院と連携し、災害医療に関する関係機関会議の開催や医療機関の医療防災訓練に参加し、災害時に起こる問題とその対策を共に考えていく。
	関係機関が共同して災害対策訓練を実施し、災害マニュアルの実効性を確認します。	・各保健所単位で災害対策訓練を実施し、関係機関(医療機関や市町)とのより実践的な連携体制の確認、強化を行っている。 ・大阪府保健所災害対策マニュアル(AC)を活用した訓練を行い、マニュアルの実効性を確認する。	○	・大阪府保健所災害対策マニュアルの定着をめざして、訓練・研修を継続的に実施していく。
周産期医療、小児医療	研修会や会議等の場を活用し、医療機関に災害マニュアルやBCPの策定を促します。	・病院の立入検査等を活用して、災害マニュアルやBCPの策定について働きかけている。 ・医療機関に医療対策課主催の大阪府システム研修(EMIS)参加を勧奨した。	◎	・引き続き、病院の立入検査等を活用し、災害マニュアル、BCPの策定について働きかけていく。
	医療的ケア児を含む慢性疾患・障がい児等の支援体制の整備に向けて、周産期や小児医療機関、在宅医、地域関係機関等が、入院中から在宅療養まで継続して支援が行えるよう連携システムの強化を図ります。	・小児在宅医療地域連携ネットワーク構築事業として、医療的ケア児等の在宅支援体制の充実を目指した医療・保健・福祉・教育機関との連絡会議を開催。(和泉1回・岸和田1回・泉佐野*2回)*泉佐野は管内1市3町との共催 ・医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場(管内市町主催)で医療的ケア児の現状や地域課題について共有。(和泉2回・岸和田1回・泉佐野*6回)*泉佐野2回は、保健所と管内1市3町と共催 ・地域診療情報連携システム(南大阪MOCOネット、大阪母子医療センター実施)に3保健所が参加し、個別支援のための情報共有及び災害時の安否確認に活用。災害を想定したシミュレーションにより、効率的に安否確認情報が共有できる体制を構築する。(災害時訓練はブロックで年2回実施予定)	○	・小児在宅医療地域連携ネットワーク構築事業を継続開催する。 ・地域診療情報連携システム(南大阪MOCOネット)への参加は、3年半のモデル事業として取り組み、大阪母子医療センターと医療的ケア児の情報を共有し患者支援に活かす。
	妊娠期からの児童虐待発生予防、早期発見に向けて、管内市町と共に周産期医療機関等と地域関係機関が連携し、支援が必要と判断された子どもと保護者への支援体制の充実を図ります。	・児童虐待予防研修として、管内市町保健師合同で児童虐待予防に関する知識、スキル向上のための講義や事例検討会を実施。(和泉1回・岸和田1回・泉佐野1回) ・周産期ネットワーク会議(管内市町主催)への参画。(和泉1回・泉佐野3回)	○	・管内周産期ネットワーク会議への参加 ・必要に応じ、妊娠期からの児童虐待予防のための研修会等を企画する。